

研修名 乳児保育・教育

令和元年5月17日(金) 9:45~12:15

講演 「乳児保育・教育における個々の発達を促す生活と遊び」

講師 子どもとことば研究会 今井 和子氏



1 講演要旨 最善の利益の保持

・子どもたちが大切にされることを知る

⇒子どもたちを大切にすることを知る大人へ。

⇒子どもが泣いた時のケアがアタッチメントの形成で一番重要。

・自己肯定感を育む

⇒子ども達の願い、欲求を受け止めて満たし、実現させる。

⇒自分を大切にできないと周りを大切にできないことへ繋がる。

⇒自己否定、自己憎悪からいじめの増加。

→ 「安心の積み重ね」が「発達を促す」ことへ繋がっていく。

人とぶつかり、折り合う経験を学ぶ ... 自己の主張・葛藤を暖かく、肯定的に受け止められる。

三項関係の築き ... おはしゃぎ遊び、いないいないばあなど、人との関わりを喜ぶ遊びであやしてもらおう。

憧れや感動を蓄えることで自己発揮 ... 共感されながら見立てつもり遊びを通して、イメージにそった能動的行動を楽しむ。

2 感想

今井先生の講演で特に印象に残ったのは、いじめをする子どもについてである。まず、「日本の子どもの自己肯定感の低さ」から生まれるものだと聞き、成程と思った。今の時代、あやし方(育児文化)が分からず、スマホに子守りをさせてしまっている親も多いと学んだ。しかし、それはつまり、その親たちも子どもの頃、同じ体験をしてきたのかもしれない。自分を大切する方法を知らなければ周りも大切にできない。当然、溜まったストレスが弱い者を捌け口にし、発散することは許されることではないが、そう成らざるを得ない環境がそこにはあったのかもしれない。自分もいじめに苦しんできた。目の前にいるこの子どもたちがいつかあんな思いをしてしまうのではないか、と思うと悲しい。だから私たち保育者が子どもと良く関わり、その関わりを保護者に伝えていくことが必要だと、大切なことだと、改めて思い、今後の保育にも力を入れていきたい。

(記録 永福こども園 荒賀 梨沙)